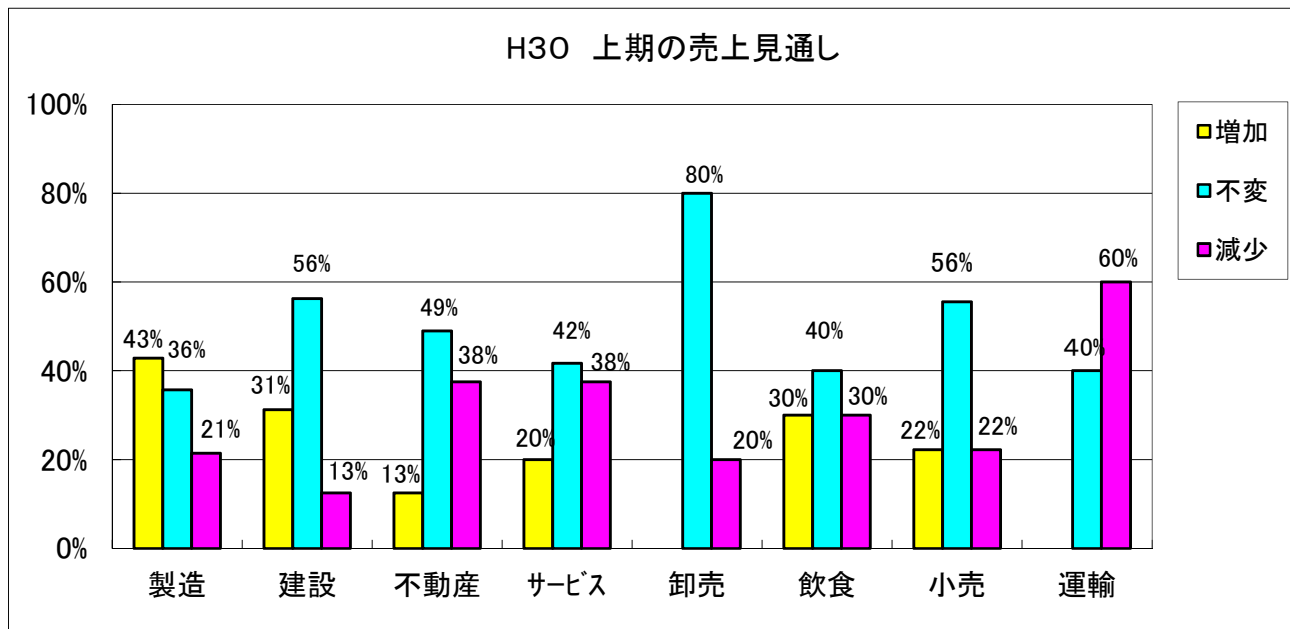


調査2 平成29年7月～12月を基準とした平成30年1月～6月の先行き見通しについて調査した。調査項目は調査1と同じ項目である。⑤業界の景気動向についてはすでに5～6ページで表示してあるのでここでは省略する。

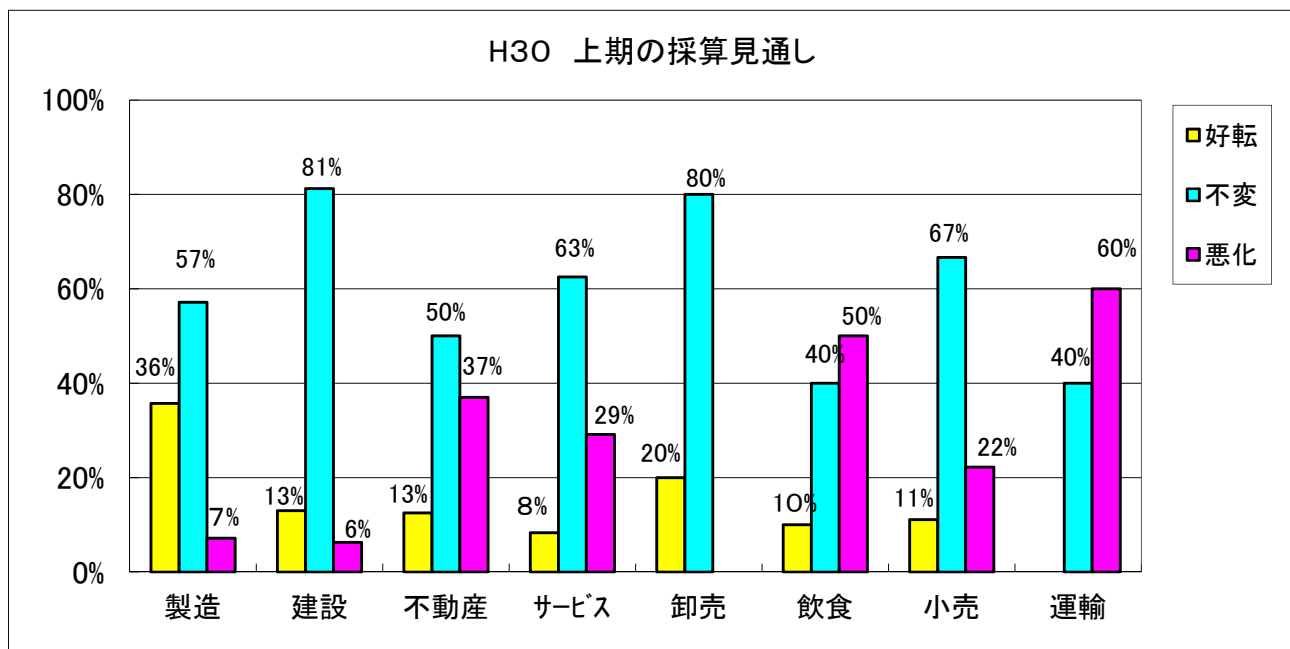
①売上見通し

全体でみると「増加」20%（前回27%）、「減少」30%（前回18%）と若干厳しいの見通しとなっている。業種別でみると「増加」する見通しが多かった業種は、製造業（43%）、建設業（31%）。一方、「減少」する見通しなのが運輸業（60%）であった。



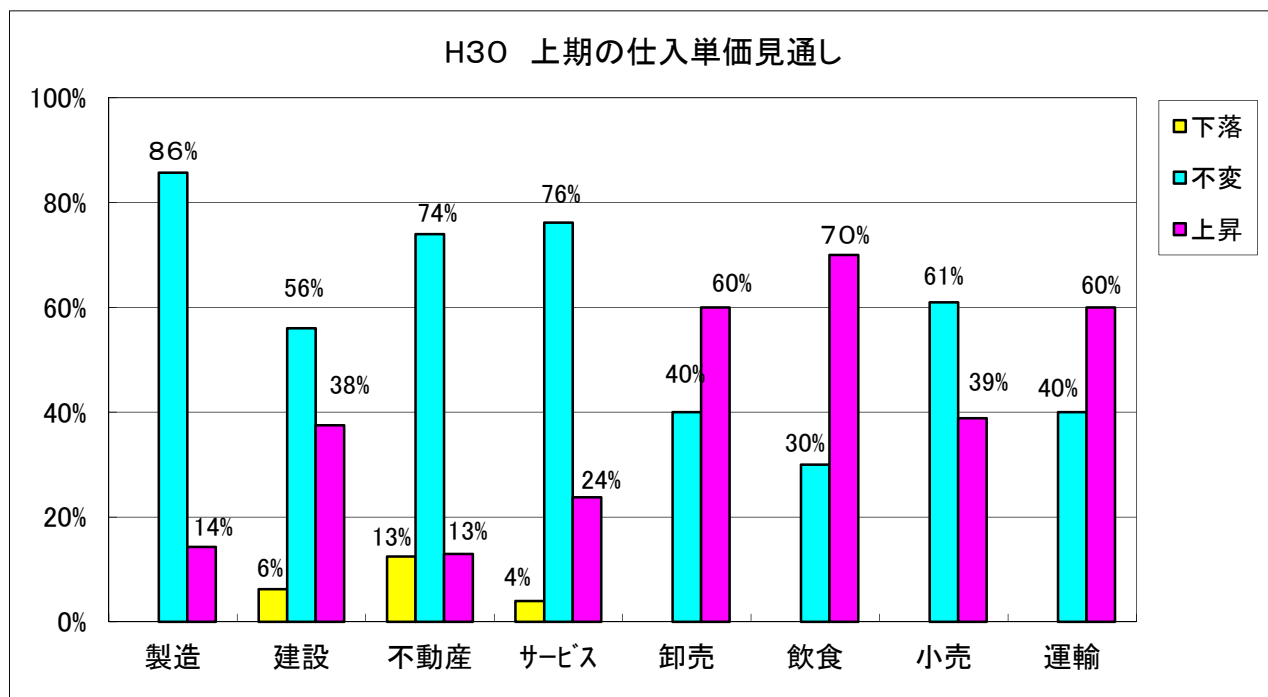
②採算見通し

全体的にみると、「好転」が14%（前回18%）、「不変」が60%（前回63%）、「悪化」が26%（前回19%）となった。業種では、「好転」の見通しが高いのが製造業（36%）でもっとも多かった。



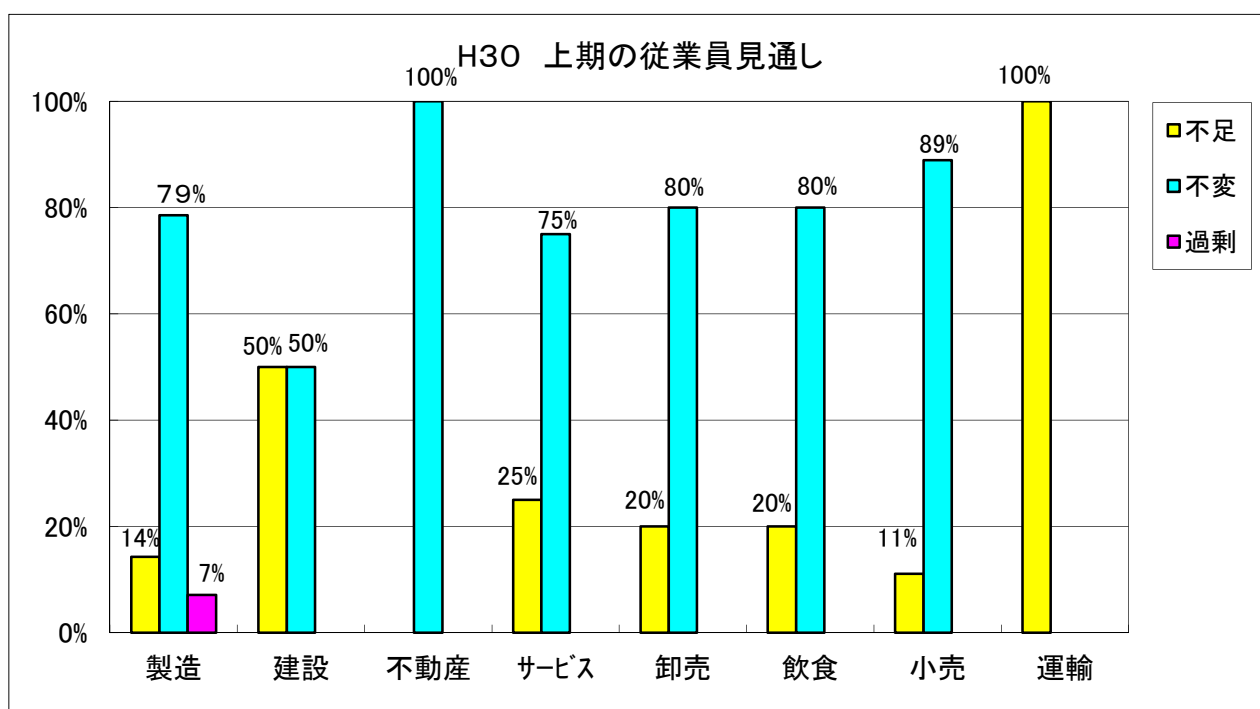
③仕入単価の見通し

全体的には、「不変」が58%（前回67%）と多い中、業種別では「上昇」が高いのは飲食業70%（前回67%）、運輸業60%（前回60%）であった。



④従業員の見通し

全体的には、「不足」が30%、「不変」が69%とであった。業種別でみると「不足」との見通しが多いのが運輸業100%（前回60%）とかなり深刻な状況である。

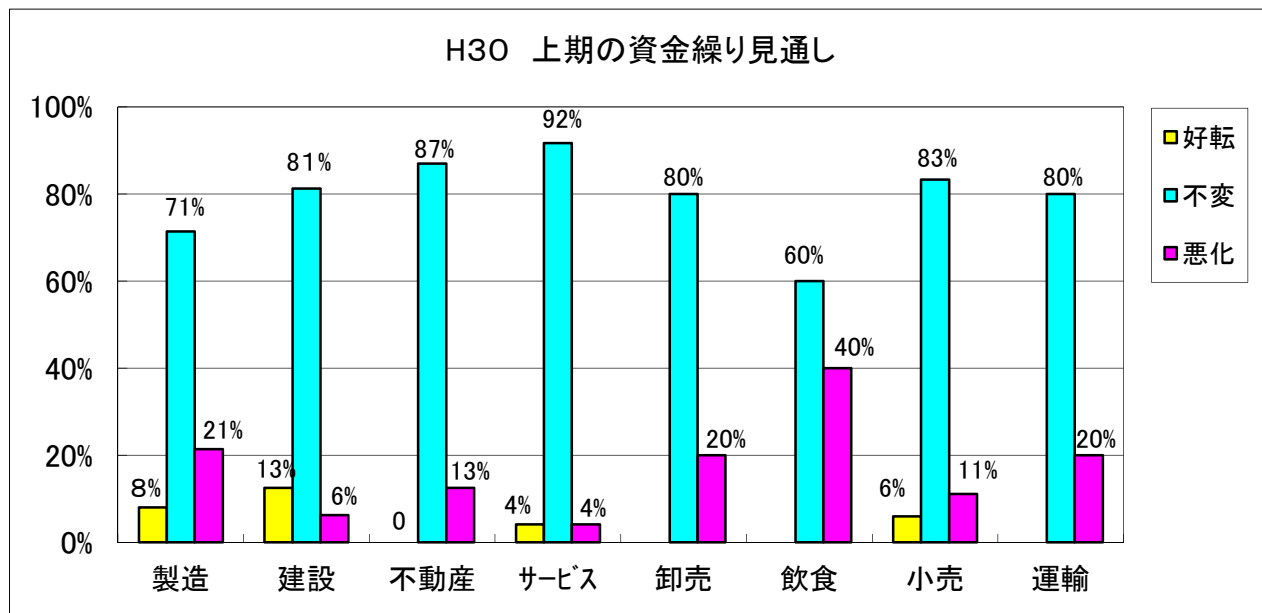


⑤業界の景気動向見通しについて

P5～6を参照。

⑥資金繰りの見通し

全体的に「不変」が76%と多く、「悪化」が17%、「好転」が4%であった。資金繰りが「悪化」の見通しが高いのが飲食業40%（前回27%）であった。



⑦金融機関の融資状況見通し

全体的には「不変」(53%)が多く、続いて「融資無し」(25%)、「緩やか」(11%)、「厳しい」(11%)となっている。前回の調査結果とほぼ同様で融資状況については大きな変化は見られなかった。

